

玉井忠兵衛殿

古川庄三郎殿

漆藏帳面之末書

右之通、如此帳面、毎年可被請取候、重而改出シ有之候ハ、書付越可申候以上、

巳十二月朔日

守岡主馬

山田九兵衛殿

原田五助殿

一 寛永十六卯年、加藤式部少輔様御代、木數御改貳拾万三千百九本三分九厘と成、

一 輪之内蠟、まじり釜本らうのはかり御藏のうつしをいたし置、掛させ可申候、斤量ニ而一切う

けまじく候事、

一 蠟をゆがき候者は、釜中ニ而ゆがき可申候事、

一 漆之木二番かきいたすまじく候、并毎年うるしの直損可申事、

右之通、在々百姓共ニ可申付候、相背者於有之者、曲事ニ可申付也、

寛永十九年午十一月廿三日

守岡主馬

輪之内村々肝煎中

〔蠟漆舊記〕乾蠟漆御引渡御前帳上書

一 會津若松城附蠟漆之帳

如此有之御帳面之内、郡分之村別有之候得共略ス、

合壹萬九千七百四拾本七分

大沼郡

合拾壹萬三千三百四本四厘

山ノ郡

合七萬三千八百拾九本七厘

稻刈郡

合三百八拾七本八分

川沼郡